

陸奥湾  
漁場環境調査情報

平成17年9月28日  
水産総合研究センター  
増養殖研究所  
電話 017(755)2155

底質調査(7月7,8日、8月29,30日実施)と貧酸素監視のための東湾ブイ周辺の臨時水質調査(9月27日実施)の結果が判明しましたので、その結果の概要をお知らせします。

臨時水質調査結果

9月27日の東湾ブイ地点での30,37,41,45mの溶存酸素量は、6.1~6.9mg/Lの範囲で、全観測層で夏季の酸素量が低下する時期の底層の基準値の4.3mg/Lを上回っており、調査時点では貧酸素または低酸素状態は認められませんでした。

また、水温分布をみると、30~41m層で21.4~22.1、海底上2mの45m層で19.5と、海水の鉛直混合が40m層付近にまで達していました。

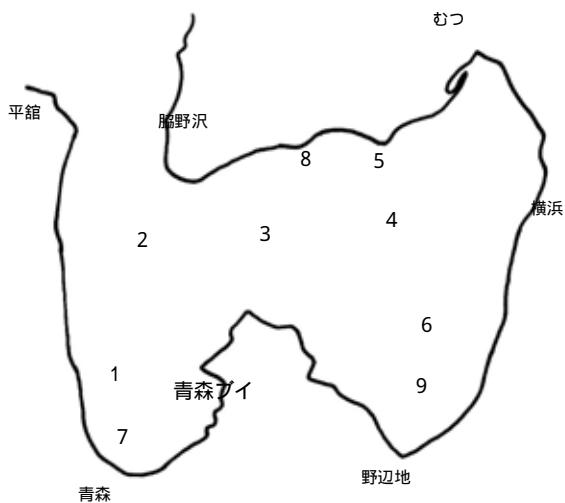
同じ時刻の東湾ブイの観測結果では、底層(海底上1m層)の水温は16.9と低く、溶存酸素量は4.08mg/Lと基準値未満となっていることから、東湾ブイの海底直上には貧酸素水がごく薄い層となって張り付いていて、その上層との混合が進んでいないことが考えられます。

今後、海底直上ではまだ酸素量が低下するおそれはあるものの、海水の混合が海底まで及ぶようになるにつれ、低酸素状態は徐々に解消されるものと考えられます。

底質調査結果

ILは2.4~9.8%、TSは0.01~0.19 mg/g、CODは3.5~35.7mg/gで、含泥率が4.1~70.0%の範囲で、CODについてはSt.1~5では基準値を超える値となりましたが、図に示したとおり、全項目とも平成8年からの調査結果の変動範囲内であり、湾全体での有機的な汚染の進行は認められませんでした。

また、沿岸寄りの調査地点であるSt.7,8,9では変動の大きいTSを除き、低い値で推移しています。



底質調査地点

調査項目

- IL : 強熱減量(海底泥を高温で加熱した際に燃える有機物の量)
- TS : 全硫化物量(海底泥中の硫化物量)
- COD : 化学的酸素要求量(海底泥中の有機物量)
- 含泥率 : 63μm以下の泥粒子の重量百分率(細かい泥には有機物が多い)。

これらの4項目は全て底質の有機汚染の指標で、数値が高いほど汚染が蓄積しているといえます。

項目	「水産用水基準2000」による基準値
TS	0.2mg/g 乾泥以下
COD	アルカリ性法で20mg/g 乾泥以下

